

令和7年度「データサイエンス入門」自己点検・評価

長崎県立大学全学教務委員会／データサイエンス教育専門部会

自己点検の視点	令和7年度自己点検
プログラムの履修・修得状況	<p>令和7年度における本プログラム科目「データサイエンス入門」の履修者は839名であった。一部学科で担当者の変更はあったが、実施4年目を迎えノウハウの蓄積もあり、各学科とも滞りなく授業が実施された。最終的な修得者は786名であり、修得率は93.7%となった。過年度生の受講割合が年々増加しているが、修得率としては昨年度比2.3ポイント増とやや持ち直している。</p>
学修成果	<p>確認テストの運用については引き続き繰り返し取り組むことを奨励し学修成果の定着を図った。結果として、期末テストの平均点は全ての学科で90%を上回るスコアとなった。全体平均についても95.3/100点と過去3年を上回る高いスコアとなり、こうした学修方法が一定の成果を出していると考えられる。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>授業評価アンケート回答者のうち、到達目標を「大いに達成できた」又は「ほぼ達成できた」と回答した学生の割合は85.6%であり、ほぼ昨年同様の割合であった。また、身についたと思う力として「情報技術（ICT）運用力」を選択した学生の割合は72.0%であり、昨年度を大きく上回った。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>授業評価アンケートにおいて「この科目を他者に薦めたいと思うか」という項目に対し「薦める」又は「やや薦める」と回答した学生の割合は、回答者のうち94.4%となった。引き続き9割以上ではあるものの、前年度から若干の低下が見られる。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>休学等の理由を除き令和7年度入学生全員が受講している。累積の受講者は3,175名となり、今年度在学者の3,127名（5/1時点）を超え、当初の想定どおり令和7年度でほぼ全ての学生が受講するという計画を達成した。なお、今年度の過年度生（2年生以上）の受講者は63名であり、うち47名が今年度単位を修得した。不合格となった16名についても、必修科目として設定していることから、次年度以降再履修し修得を目指すことになる。</p>
令和7年度自己点検に対する評価	<p>全学科必修科目としていることもあり履修率等の向上に向けた計画は順調に推移しており、当初の予定どおり令和7年度においてほぼ全ての学生が受講するという計画を達成した。また、再履修者の修得率についても前年度の約65%から今年度75%程度とやや改善している。ただし、再履修者の数が年々増加傾向にあり、初年度未修得者の滞留が増えつつある状況も見られるようである。今回、修得率は前年度から改善が見られたが、初年度での取りこぼしをできる限り減らすため、修得率を更に上げるよう努める必要がある。</p>